



ハイライト:

- 平成22年11月6日
(土)黒沢尻東小学校創立50周年記念式典・祝賀会開催が決定

- 創立50周年記念事業第1回実行委員会が開催され今西界雄さん(元PTA会長)が実行委員長に選任される
- 50周年記念事業のテーマは「絆」

Wanted:

- 1.黒沢尻東小学校出身の有名人を教えてください
- 2.東小に関する古い写真や資料をお持ちの方はお貸し下さい(スポ少・郷土芸能・地域活動・PTA活動等も含む)
- 3.実行委員を募集中！是非お力をお貸し下さい

連絡先:

黒沢尻東小学校
副校長：照井睦子
TEL 6 3-2 1 9 4
FAX 6 4-4 1 9 0

雑感

私自身も、黒沢尻東小学校の卒業生であり、来年50歳を迎えようとしております。そんな折、この実行委員会が設立され、自らがそのメンバーになるとは偶然の仕業とはいえ何か特別な縁を感じずにはられません。自分自身が子どもの頃は、小学校が創立何年目等という意識は全く無く、おそらくそれは今の子どもたちも同じ状況であると思います。今回のこの事業は、50周年事業の趣旨にあるように我々だけにとどまらず、様々な絆によって活かされている事を子ども達自身が知るよい機会であると思います。事業の外見のみの成功だけにとらわれることなく、そのような気づきを子どもたちに与えることができる50周年事業を実施することができればより多くの成果を収めることができると思います。今後とも、地域の皆様のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。(H. O)

黒沢尻東小学校創立50周年に向けて

黒沢尻東小学校創立50周年
実行委員長 今西 界雄

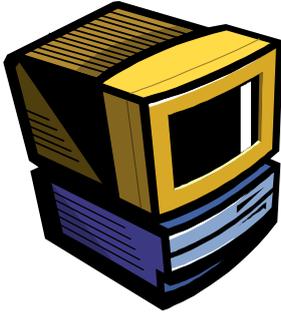
来年、黒沢尻東小学校が、創立50周年を迎えることは、すでに皆様ご承知のことと存じます。昨年度より準備委員会が設けられ、何のためにどのような記念行事や事業を行っていくべきか基本的なコンセプトが検討されて来ました。今年度に入り実行委員を広く募集し、現段階においても協力者を募っているところであります。実行委員会には、学校関係者はもとより、区長さんを始め地域一丸となっていくことのできる体制を整えるべく多くの方々のご参加を大いに期待するものであります。すでに第一回の実行委員会が開催され委嘱状の交付と基本的な説明を終え、今後具体的な詰めをしていく段階に入っております。創立50周年という大きな節目に当たり、

様々な角度から事業計画を検討していますが、昨今の経済不況の折、資金繰りの困難が予想されます。皆様お一人お一人の地道なご協力を頂きながら、計画を進めていく必要があると考えております。今回、子どもたちと共にこの周年行事に取り組んでいく中で、黒沢尻東小学校の新たな歩みが生まれていくことを大いに期待するものであります。

最後に、今後学校関係者並びに地域の皆様の深甚なるご支援をお願い申し上げ就任のご挨拶とさせていただきます。



昭和35年～昭和44年まで
黒沢尻東小学校校舎として
使用された旧北上中学校
(新制黒沢尻中学校)
校舎
出典：北中創基50年史



図や写真の説明を記入します。

記事の見出し

黒沢尻東小学校は昭和35年4月1日(1960年)、前身の黒沢尻小学校から分離開校し現在地に創立されました。以来、兄弟校黒沢尻西小学校と共に北上市のセンター校として「自主」「創造」を校是とし、「強く、賢く、美しく」を学校目標に掲げながら半世紀の歴史を刻み今日に至りました。本校卒業生は約7000名余に達しており、北上市をはじめ県内外はもとより、様々な分野において地域づくり、国づくりに尽力する人材を多く輩出して来ました。今回、50周年という歴史の節目を迎えるときに、わたし達黒沢尻東小として、ここまでに至る地域の皆様方、関係機関の皆様方の支えを感じとり、節目だ

からこそこれに深い感謝をする時と考えるものです。それは、50年という昭和から平成の激動の歴史を振り返った時に、そこに生かされ、大切にされている地域の小学校という至福に対し、感謝を表したいのであります。あわせて、これまでの感謝にとどまらず、今後地域や、まちづくりの核の一つとなるべく、より良い教育環境の創造、人材育成、地域への貢献を再確認し継承する節目の事業と位置付け実施するものであります。今までの、「半世紀の歩みに対する感謝・東小の役割のふりかえり」、そして「これからの50年の役割の確認と誓い」の事業と位置づけ

「印象に残るような文章を
読者の目を引くよう、記事
の中から選びここに記入し
ます。」

記事の見出し

ここに記載する記事は 370 文字から 500 文字程度の長さになります。

ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケティング資料から情報を再利用できることです。

ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。

読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。



図や写真の説明を記入します。

記事の見出し

ここに記載する記事は370文字から500文字程度の長さになります。

ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケティング資料から情報を再利用できることです。

ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。

読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。

記事の見出し

ここに記載する記事は 370 文字から 500 文字程度の長さになります。

ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケティング資料から情報を再利用できることです。

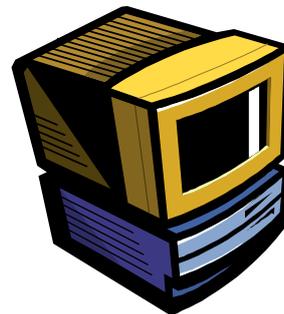
ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。

読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製

品の試供品提供などの情報などがあります。

記事の内容を決めるには、インターネットのホームページを利用して探したりすると良いでしょう。いろいろな話題を数多く取り上げる場合は、各記事の内容を簡潔にまとめて短かくするように心がけてください。

ニュースレターに載せる記事は、そのままホームページにすることもできます。Microsoft Publisher には、ニュースレターをホームページに簡単に変換する機能が用意されています。ニュースレターを作成したら、ホームページに変換して



図や写真の説明を記入します。

記事の見出し

ここに記載する記事は 370 文字から 500 文字程度の長さになります。

ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケティング資料から情報を再利用できることです。

ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。

読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。

記事の内容を決めるには、インターネットのホームページを利用して探したりすると良いでしょう。いろいろな話題を数多く取り上げる場合は、各記事の内容を簡潔にまとめて短かくするように心がけてください。

「印象に残るような文章を
読者の目を引くよう、記事
の中から選びここに記入し
ます。」

記事の見出し

ここに記載する記事は 370 文字から 500 文字程度の長さになります。

ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケティング資料から情報を再利用できることです。

ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。

読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。



図や写真の説明を記入します。



黒沢尻東小学校創立50周年記念事業広報誌

ビジネス 1 の住所

住所 2 行目

電話 : 00 (5555) 5555

Fax : 00 (5555) 5555

Email : xyz@microsoft.com

ここには会社の業務内容、モットー、社歴などについて紹介する文章を記入します。取り扱っている製品やサービスのリスト、主催するイベントのリスト、支店の所在地、これまで取り引きがあった顧客や会員にどんな人がいるかなどを紹介するのもよいでしょう。

問い合わせを受け付ける電話番号を明記しておくことで読者が会社についてもっと詳しく知りたいときどこに問い合わせたらよいかすぐに分かるので便利です。

ホームページもご覧ください。
example.microsoft.com

キャッチ コピーを入力します



図や写真の説明を記入します。

記事の見出し

ここに記載する記事は370文字から500文字程度の長さになります。

ニュースレターを販売促進のツールとして利用する利点は、新聞発表、市場調査報告、各種報告書など別のマーケティング資料から情報を再利用できることです。

ニュースレターの第1の目的は、製品やサービスを売り込むことですが、ニュースレターを成功させるためにはいかに読者の役に立つ情報を提供できるかが鍵となります。

読者の役に立つ情報には、自分の手で記事を書き、イベントの開催予定や新製品の試供品提供などの情報などがあります。

記事の内容を決めるには、インターネットのホームページを利用して探したりすると良いでしょう。いろいろな話題を数多く取り上げる場合は、各記事の内容を簡潔にまとめて短かくするように心がけてください。